

【R6年度】重点目標の取組・概要（ゆめみヶ丘岸和田の自然環境を活かした整備推進[丘陵地区整備事業]）

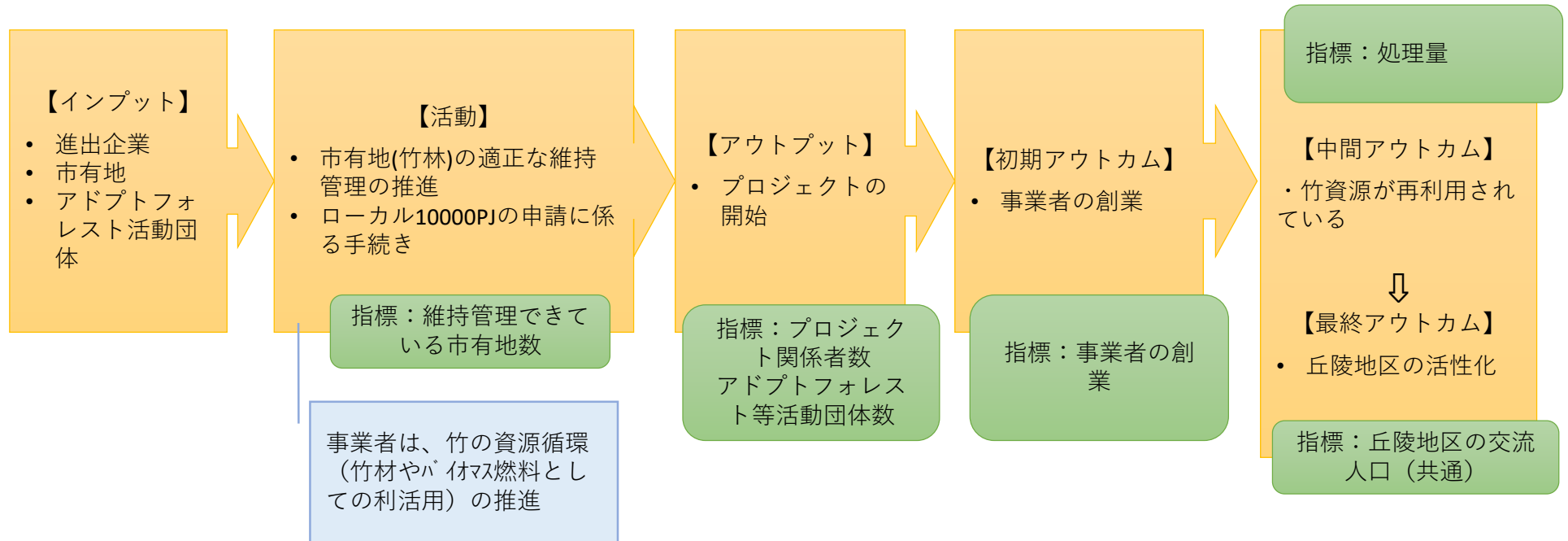
担当課（内線）	都市整備課（3126）	重点目標の方向性	泉州山手線沿道を中心とした拠点形成とアクセス性の向上
重点目標	経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の活性化につながる新たな拠点の整備を進める

現状と課題	課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
・丘陵地区の地域資源である一方、適正な管理が求められる地域課題にもなる「竹」を有効活用した広域連携、環境対策を進めることが必要である。	【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・竹を中心に広域的な連携をする等、竹を活かしたまちづくりを推進し、環境にも優しく、ゆめみヶ丘岸和田の魅力が向上している状態をめざす。 【成果に向けての各年度の進め方】 ・竹の資源循環や市有竹林の適正な維持管理を行い、パンダバンブー地域循環共生圏プロジェクトを推進する。 【R6年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 ・R6 パンダバンブー地域循環共生圏プロジェクトの現地での本格始動（R6から現地での稼働を開始、無償貸借20年間で予定） - プロジェクト関係者との連携及び事業推進 - ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会の事業との連携 【事業内容】 ・竹の資源循環（竹材やバイオマス燃料としての利活用） ・市有地(竹林)の適正な維持管理の推進 【行政の役割】 ・ローカル10000PJの申請に係る手続き（岸和田市経由） ・事業予定地の無償貸借並びに市有竹林からの竹材の供給 【まち協の役割】 ・岸和田GreenVillage構想の推進
R6年度の事業費（内訳）	
なし	

R6年度以降の想定事業費（ランニング経費）	取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
・特になし（民間主導による事業推進）	・アドプトフォレスト等活動団体数（2022➡2025）8団体➡8団体 ・プロジェクト関係者数（2022➡2025）14団体➡14団体	※必ず縮小・廃止時期を記載すること ・無償貸借期間として20年を想定

【R6年度】重点目標のロジックモデル（ゆめみヶ丘岸和田の自然環境を活かした整備推進[丘陵地区整備事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

- ・ ローカル10000PJの活用

■ 中期的にめざす成果に対する達成度

おおむね
達成

- ・ 竹を中心に広域的な連携をする等、竹を活かしたまちづくりを推進し、環境にも優しく、ゆめみヶ丘岸和田の魅力が向上している状態をめざす。

■ R 6 年度において実施・実現できたこと

- ・ 各団体におけるアドプトフォレスト活動に伴う竹林の維持管理
- ・ 関係者によるパンダバンブーアートプロジェクトの実施
- ・ まちづくり協議会による「竹まつり」の実施

■ R 6 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）

おおむね
達成

- ・ 竹の資源循環や市有竹林の適正な維持管理を行い、パンダバンブー地域循環共生圏プロジェクトを推進する。

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 6 年度実績値
○	アドプトフォレスト等活動団体数	団体	8（2022）	8（2025）	8
○	プロジェクト関係者数	団体	14（2022）	14（2025）	15

■ R6年度において実施・実現できなかったこと

- ・ ファクトリーの補助金獲得に至らなかった。
- ・ 事業者の操業に至らなかった。

■ 課題分析

- ・ ファクトリーの実現に向けた関係者を調整するため、各分野の専門的なコーディネーターが必要。
- ・ 竹を切り出す人手の確保が必要。

■ ロジックモデルの振り返り

- ・ プロジェクトのスタートラインについているが、初期アウトカム出現に向けては詳細な検討が必要。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 引き続きファクトリー建設に向け、循環した取り組みの実現が可能となるよう人材確保を行い、予算要求へつなげる。